

【子供サミット】

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	岩手県立伊保内高等学校
学校情報等	・設置者の別 (国立 ・ 公立 ・ 私立) ・児童生徒数 (130人) ・学級数 (6学級) ・教職員数 (26人)		

取組の概要	<p>【 生徒会による「いじめ撲滅宣言」と「スマートフォン利用マナーアップ宣言」 】</p> <p>平成 25 年 9 月施行のいじめ防止対策推進法を受け、本校でも学校いじめ防止基本方針を策定した。この中で、「いじめの未然防止のための取組」の「生徒の主体的な取組」に着目し、本校が進めている「学校活性化プロジェクト」の柱の一つである生徒の主体性を活かした取組として、生徒会による「いじめ撲滅宣言」づくりに取り組んだ。生徒会執行部への事前指導の中で、「自転車マナーアップ宣言」のように、執行部がいじめの撲滅を全校生徒に呼びかけるような活動にはどうかと、生徒の主体的な活動につなげていくことを勧めた。その後、原案作成の参考となる資料をいくつか提供し、生徒たちだけの話合いで宣言文の草案を作成させた。</p> <p>話合いを経て、生徒会執行部でまとめた草案は、「いじめ撲滅宣言」だけにとどまらず「スマートフォン利用マナーアップ宣言」の2つであった。生徒会長によると、執行部内で話し合った際、本校におけるいじめ事案の多くがネット上の誹謗中傷であるため、スマートフォンの利用についても宣言・ルールをつくらなくてはいじめ撲滅にはならないという結論に至ったということである。</p> <p>その後、文言の修正を経て、5月中旬の生徒総会に宣言文が議案として提出され、承認された。</p> <p>これを受けて生徒会執行部は、名刺サイズのカードに宣言文を両面印刷し、ラミネート加工を施して全校生徒に配布した。このカードは、生徒手帳に挟んで携帯するためのものであり、2つの宣言文を常に持ち歩くことによりその意識を高めようという生徒たちの発想により生み出された。</p>
	<p>効果・成果</p> <p>県内の新聞に取り上げられたこともあり、以前よりいじめを撲滅しようという生徒の意識は高まったと思われる。一方で、携帯電話・スマートフォンの使用については、規定により禁じられている校内で使用した件数が、前年同期とほぼ同数という結果であった。</p> <p>しかしながら、いじめ事案やスマートフォンの使用違反に係る指導を行う際、「生徒自らが宣言した」という事実があるため、生徒が指導を素直に受け入れ、改善しようとする姿勢が見られるようになった。</p> <p>今年度は、学校いじめ防止基本方針を策定したということもあり、昨年度よりいじめの問題やスマートフォンの使用について、生徒に考えさせる機会が多くなった。これらは、皆で話合って決めた宣言に対して責任を持つという「自治」を考える場となり、集団の成長に大きくつながった取組となった。</p> <p>定期的実施している学校生活アンケートにおいて、宣言文カードの携帯について訪ねたところ、ほとんどの生徒が生徒手帳に入れて携行していると答えた。</p> <p>教職員は、宣言文カードの取組をより効果的なものにするために、日常の指導において、生徒の「集団への帰属意識」を育むことを大切にしている。</p> <p>参考までに、本校では夏季休業前まで、いじめは認知されていない。宣言文カードをより有効に活用していくことなど、今後の検討課題はあるが、生徒のみならず教職員や保護者のいじめ撲滅に対する意識も高まったという点では大きな成果があったと捉えている。</p>

※ 取組として該当するものに○をつけてください(複数回答可)。

- | | | |
|---|---|--|
| <input checked="" type="radio"/> (ア) 未然防止のための取組 | <input type="radio"/> (イ) 早期発見・早期対応の在り方 | <input type="radio"/> (ウ) 教育相談体制の充実 |
| <input type="radio"/> (エ) 生徒指導体制 | <input type="radio"/> (オ) 校内研修 | <input type="radio"/> (カ) PDCA サイクル |
| <input checked="" type="radio"/> (ク) ネットいじめ対策 | <input type="radio"/> (ケ) 保護者・地域社会の取組強化 | <input checked="" type="radio"/> (キ) 児童生徒主体の取組 |
| <input type="radio"/> (コ) その他 () | | |

(参考資料)

◇生徒総会において「いじめ撲滅宣言」「スマートフォン利用マナーアップ宣言」承認

5月14日(水)、生徒総会が行われました。活動方針は「報恩」、先生方や地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で過ごしていきたいという願いがこめられています。



生徒会長から



専門委員長から



話合いの様子

また、5月15日(木)の岩手日報に、上記生徒総会で承認された「スマートフォン利用マナーアップ宣言」と「いじめ撲滅宣言」が大きく取り上げられました。いじめの問題に対して生徒自身が積極的に取り組んだという点が、高く評価されています。



名刺大の宣言書を持つ山本隆紀生徒会長(左)と生徒会執行部のメンバー

スマホ適正利用 / いじめ撲滅

伊保内高生が宣言書

「思いやり」誓い合う

名刺大カード 全校生徒に配布


九戸町の伊保内(高)普通科高校長 谷村 啓一 氏(左)は、本校の生徒総会(5月14日)で承認された「スマートフォン利用マナーアップ宣言」と「いじめ撲滅宣言」を、全校生徒に配布した。生徒自身が主体的に取り組む姿勢を高く評価している。

スマートフォン利用マナーアップ宣言

私たちは伊保内高等学校生として、スマートフォンを適切に活用し、他人を中傷誹謗することをしません。また、伊保内高生は主体的に使用する権利を有していることから、すぐに返信をしなければ仲間外れになるなどのことが無い等、全校生徒すべてがスマートフォンに支配されるような生活はしません。

私たちは
群集心理にのって個人を攻撃するようなことはしません


「思いやり」を大切にし、互いの人格を尊重し、先生方や地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で過ごしていきたいという願いがこめられています。


いじめ撲滅宣言
岩手県立伊保内高等学校 生徒会

私たち伊保内高等学校生は、互いの人格を尊重し、生徒会会則第1条にある「誠実かつ明朗な学校生活の実現」を目的として以下の定めを守り、いじめを撲滅することを誓います。

- 1 相手への偏見や差別をなくします。
- 2 本人の許可なく、その人の私物に手をつけません。
- 3 コミュニティサイト等において、相手が特定できるような書き込みをしません。
- 4 群集心理にのって個人を攻撃するようなことはしません。
- 5 感情にまかせて相手を中傷するような発言はしません。

平成26年5月14日


スマートフォン利用マナーアップ宣言
岩手県立伊保内高等学校 生徒会

私たち伊保内高等学校生は、在学期間において以下の定めを守り、スマートフォンの適正な利用につとめることを誓います。

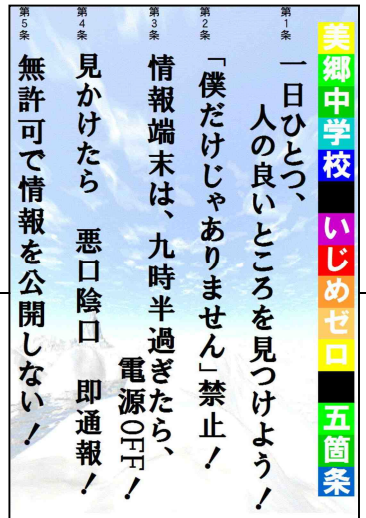
- 1 ネットワーク上において、人を中傷誹謗することをしません。また、伊保内高生は主体的に使用する権利を有していることから、すぐに返信をしなければ仲間外れになるなどのことが無い等、全校生徒すべてがスマートフォンに支配されるような生活はしません。
- 2 特別な許可なく校内では使用しません。
- 3 安易な個人情報の開示はしません。
- 4 フィルタリングを利用します。
- 5 チェーンメールや迷惑メールを冷静に判断し拡散させません。

平成26年5月14日

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	秋田県	学校名	美郷町立美郷中学校
学校情報等	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の別 (国立 ・ 公立 ・ 私立) ・児童生徒数 (520人) ・学級数 (20学級) ・教職員数 (49人) 		

取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策推進法公布後すぐに校長が基本方針を策定し、生徒指導主事がその内容を具体的に図で示し(図示版)全教職員で共有化を図っている。 ・いじめの問題に対処するための校内体制として、常設のいじめ対応チーム「清流委員会」(校長・教頭・教務・生徒指導主事・生徒指導専任・養護教諭・各学年主任・当該学級担任)と週一回朝に行う生徒指導情報交換会「湧水委員会」(全教職員)に加え、いじめの兆候が見られた場合や事案発生時に即時対応するいじめ即時対応チーム「清流小委員会」(教頭・生徒指導主事・生徒指導専任・当該学年部教員)を設置している。 ・本校の基本方針において誰が何をどうするのか明確に定め、図示版では実際に事案が起こったときの対応の仕方を視覚化する。また、いじめへの対応のポイント等を具体的に示している。 ・「いじめのない学校風土づくり」に向けた取組である「こころふれ合い充実プロジェクト」の一つとして生徒会による「いじめゼロ集会」(年4回)を今年度も継続している。 ・「いじめゼロ集会」における生徒対象のアンケート調査の結果や意見交換、クラス毎の話し合いを経て定まったいじめのない学校づくりを推進するための「いじめゼロ宣言」(平成25年度取組参照)、および具体的行動規範となる「いじめゼロ五箇条」(平成26年度)を採択した。
効果・成果	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「こころふれ合い充実プロジェクト」の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の計画と運営による「いじめゼロ集会」の実施…年4回 ・地域の行事に積極的に参加 ・一人一鉢運動 ・一心祭(学校祭)へのお年寄り招待 ・あいさつ運動強調月間(小・中連携) ・独居老人宅除排雪ボランティア活動 ・「こころ」を育てることを主眼においた道徳・特活・生徒会活動の横断的連携 </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 「いじめゼロ集会」後に行われた学級討議において、自分自身が困っていることを踏まえながら、いじめにつながる「ネット端末」の使い方をどうするかについて真剣に考えようとする雰囲気を感じられた。また、一人ひとりの考えがクラスの宣言に結び付き、それが全校の「いじめゼロ五箇条」に集約されていく流れの中で、自己存在感・自己有用感を感じながら生き生きとした表情で活動する姿が見られた。 2 教育的予防活動を通して「いじめのない学校風土づくり」を継続すべく、生命の尊重や集団生活の向上、情報モラルや社会参画に関わる道徳の時間の内容と特別活動との関連を図った指導計画がたてられ、それに沿った取組が進められている。 3 「いじめゼロ五箇条」等で表明したルールの取組状況を、生徒自らが把握し、課題等に気付き合い、さらに改善に向けた活動につなげられるよう全教職員が心がけていることで、一層「教育的予防」に努めようとする気運づくりにつながっている。



取組として該当するものに をつけてください(複数回答可)		
(ア)未然防止のための取組	(イ)早期発見・早期対応の在り方	(ウ)教育相談体制の充実
(エ)生徒指導体制	(オ)校内研修	(カ)PDCA サイクル
(ク)ネットいじめ対策	(ケ)保護者・地域社会の取組強化	(コ)その他()

児童会・生徒会によるいじめに係る取組

学校名	美郷町立美郷中学校	児童生徒数	525	学級数	20
-----	-----------	-------	-----	-----	----

1 活動名 ～美郷中こころふれ合い充実プロジェクトより～「いじめゼロ集会」

2 活動の趣旨

- 1) 生徒による企画・提案・運営を通して、自己決定の場を創出する。
- 2) 異学年間の交流を通して、共感的な人間関係を構築する場を設定する。
- 3) 「生きること」をテーマに、命を大切に育てる。

「こころふれ合い充実プロジェクト」の主な内容

- ・生徒会の計画と運営による「いじめゼロ集会」の実施…年4回
- ・ラジオ体操で地域おこし
- ・一人一鉢運動
- ・一心祭(学校祭)へのお年寄り招待
- ・あいさつ運動強調月間(小・中連携)
- ・独居老人宅除雪ボランティア活動

[図-1 いじめゼロ宣言]

3 活動の概要

- 1) 第1回いじめゼロ集会(6/28)
 - ・「いじめ」に対する自分なりの考えをもち、よりよい人間関係を築いていくための具体的な行動について考え合う。
 - ・集会後のハート学活で、学級ごとに「いじめゼロ宣言」を話し合う。
- 2) 第2回いじめゼロ集会(7/8)
 - ・第1回後で決定した学級ごとの宣言を基に、全校の「いじめゼロ宣言」を採択する。(図-1)
- 3) 第3回いじめゼロ集会(11/10)
 - ・その道一筋に生きている先輩と「生きる」をテーマに意見交換する。「校歌作詞者 詩人:谷川俊太郎さんと語る会」
- 4) 第4回いじめゼロ集会(2/10)
 - ・「いじめゼロ宣言」の評価と改善について



[第2回いじめゼロ集会より]



[校歌作詞者 谷川俊太郎さんと語る会]

4 これまでの成果と考えられること

- 1) 予防的対応、予防教育的対応が求められることについて、顕著な意識変化が認められた。
 - ・「学校いじめ自己診断表」の結果から(現2年生の1年時との比較)
 - 「いじめられる人も悪いところがあるのだから、しかたがない」→「とても思う」「だいたい思う」…36.0% (県平均+10.7%) →27.3% (県平均-8.7%)
 - 「いじめられていたら助けてあげたい」→「ぜんぜん思わない」「あまり思わない」…12.9% (県平均+5.4%) →4.5% (県平均-11.5%)
 - 「自分が間違っているときは直すようにする」→「ぜんぜん思わない」「あまり思わない」…5.6% (県平均+2.8%) →1.1% (県平均-2.6%)
- 2) 第1回集会後に行われた、生徒一人一人の思いをハートの内外(内側は皆がうれしいこと・続けていきたいこと、外側はやめたいこと・いやなこと)に貼り付けていく「クラスハート学活」において、自分の付箋一枚一枚がクラスの宣言に結び付き、それが全校の「いじめゼロ宣言」に収斂していく流れを理解し、自己存在感・自己有用感を感じながら生き生きとした表情で活動する姿が見られた。

5 今後の課題

- 1) 傾向としては顕著な好転がみられたが、意識の低い生徒もまだ相当数いることが上記調査からもうかがえる。「いじめのない学校風土づくり」と同時に、一人一人の実態を把握して個々に対応していく必要を感じている。
- 2) 教育的予防活動を通して「いじめのない学校風土づくり」に努めてきてはいるものの、思いやりのない言動や、インターネット上の書き込み等によるコミュニケーショントラブルの発生の絶無には至っていない。そこで、生命の尊重や集団生活の向上、情報モラルや社会参画に関わる道徳の時間の内容と特別活動との関連を図った指導計画を作成し、それぞれの学びや活動が一層充実するようにする。
- 3) 宣言等で表明した「目指す姿」の実践状況を生徒自らが把握し、気づき合い、さらに改善に向けた評価や取組につなげられるよう、評価や見直しも含め、引き続き「教育的予防」に勤しんでいかなければならないと考える。

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	群馬県	学校名	群馬県立中之条高等学校
学校情報等	・設置者の別 (国立 ・ <u>公立</u> ・ 私立) ・児童生徒数 (442 人) ・学級数 (12 学級) ・教職員数 (54 人)		

取組の概要	<p>吾妻地区いじめ防止フォーラム2014 テーマ：温かい言葉で、思いやりの心を伝えよう</p> <p>1 いじめ防止フォーラムについて いじめ防止フォーラムは、本県教育委員会がオール群馬の体制で実施している「いじめ問題対策推進事業」の中心事業であり、同地区の代表児童生徒がいじめ防止等に関する意見交換等を行うことを通して、いじめ防止に向けた児童生徒の主体的な取組をより活性化させることをねらいとしている。 いじめ防止フォーラムは、設置者や校種を問わず県内全ての小・中・高・特別支援学校等を対象とし、県内12地区で実施される。児童生徒は校種を超えて班を構成し、いじめ防止等に向けた活発な意見交換を行っている。</p> <p>2 対象者 吾妻地区の小学生、中学生、高校生及び保護者</p> <p>3 テーマ設定の背景 携帯電話を中心としたインターネット上のコミュニケーションツールを活用する児童生徒の増加に伴い、人々との出会いや交流手段が変化している。また、最近の高校生の会話を聞くと、男女を問わず言葉遣いが乱暴な生徒が少なくないことに気付く。いじめの態様でも、ラインやツイッターを介した誹謗中傷等の事例が多い。 このような背景から、児童生徒に適切な言葉遣いについて考えさせ、良好な人間関係を学校や家庭で築けるよう働きかけることが重要になっている。</p> <p>4 吾妻地区いじめ防止フォーラムの目的 (1) 何気なく使う言葉が意外なところで他者を傷つけたり勇気やエネルギーを与えたりするなど、言葉の持つ影響力を理解させることにより、相手の立場や気持ちを考えて行動できる力を育成することで、いじめ防止を図る。 (2) 参加する保護者が、子供に対する日常の言葉遣いを見直すとともに、親子の良好なコミュニケーションを図ることで、家庭等と連携したいじめ防止対策の強化を図る。</p> <p>5 取組の内容 (1) 各学校におけるアンケート調査の実施 地区の小・中・高校において、友達や親から言われた「うれしい言葉」、「傷つく言葉」に関するアンケート調査を実施し、結果を踏まえ、「うれしい言葉」でクラスを明るくするにはどうすればよいかを話し合った。 (2) いじめ防止フォーラムの開催 本校を会場として6月20日(金)に開催した「いじめ防止フォーラム」において、クラスを和やかな雰囲気にするための具体的な方策についての班別協議を実施し、日頃の言葉遣いを見直し、いじめが生じにくい雰囲気づくりについて話し合った。また、保護者も小・中・高の班に分かれ、アンケート結果を基に言葉の重要性を再認識し、子供への接し方について協議した。</p>
	効果・成果

※ 取組として該当するものに○をつけてください(複数回答可)。

- (ア) 未然防止のための取組 (イ) 早期発見・早期対応の在り方 (ウ) 教育相談体制の充実
 (エ) 生徒指導体制 (オ) 校内研修 (カ) PDCAサイクル (キ) 児童生徒主体の取組
 (ク) ネットいじめ対策 (ケ) 保護者・地域社会の取組強化 (コ) その他 ()

いじめの問題に対する取組事例（2 枚目）

<事前アンケート結果>

	友 達	小学校					中学校					高校				
		総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数		
				1位	2位	3位			1位	2位	3位			1位	2位	3位
う れ し い 言 葉	友 達	1	ありがとう	16	3	0	1	ありがとう	11	0	1	1	ありがとう	5	0	0
		2	すごいね	3	13	2	2	すごいね	1	8	1	2	すごいね	0	2	2
		3	がんばれ	0	2	3	3	がんばれ	0	2	1	3	がんばって	0	1	0
	親	総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数		
		1	がんばったね	8	4	4	1	がんばったね	7	2	1	1	ありがとう	4	1	0
		2	ありがとう	6	5	4	2	ありがとう	3	5	2	2	がんばったね	1	3	1
3	すごいね	2	5	5	3	すごいね	0	1	4	3	がんばれ	0	1	1		
										3	すごいね	0	0	3		

	友 達	小学校					中学校					高校				
		総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数		
				1位	2位	3位			1位	2位	3位			1位	2位	3位
傷 つ く 言 葉	友 達	1	バカ	10	2	1	1	バカ	6	2	1	1	うざい	2	3	0
		2	死ね	2	4	2	2	うざい	3	4	1	2	死ね	2	1	1
		3	うざい	1	4	2	3	死ね	0	3	0	3	バカ	1	0	3
	親	総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数			総合 順位	言 葉	該当順位に記入した学校数		
		1	バカ	3	4	3	1	勉強しろ	6	2	0	1	バカ	3	1	0
		2	出て行け	4	1	0	2	バカ	1	3	2	2	家を出てけ	1	0	0
3	うるさい	1	3	2	3	何でできないの	1	1	2	2	勉強しろ	1	0	0		
										2	死ね	0	1	1		

小学校 1 9 校 中学校 1 3 校 高校 5 校

<いじめ防止フォーラムにおける班別協議のまとめ>

テーマ：「クラスをうれしい言葉でいっぱいにするためには」

- 友達の良いところを見つけ褒めてあげ、認め合えるようにする。
- 「ありがとう」と感謝の気持ちをしっかり伝える。
- 友達の成功と一緒に喜び合う。
- 自分から積極的に温かい言葉を使う。
- 相手の気持ちを考えて行動する。
- 一人でいる友達を見たら言葉を掛ける。



班別協議の発表の様子

<今回の取組について工夫した点>

- 1 いじめの多くは、相手を傷つける言葉で始まることに着目した。
- 2 小学校、中学校、高等学校では、いじめの態様はそれぞれ異なるが言葉の影響力は共通していることに着目した。
- 3 いじめの早期発見よりも、いじめを発生させない環境を作り出すことに重点を置いた。
- 4 保護者が、家庭における子供の居場所づくりに意識的に取り組んでいただけるよう企画した。

<今後の課題・展望>

- 1 いじめの未然防止では、学級内の人間関係づくりが基本である。新入生の適応指導やホームルーム活動にピアサポートの考え方を生かしていけるような工夫が必要である。いじめ防止を継続的に推進していくためには、各学校で生徒の実態に合った指導内容を検討し、全教職員の共通理解の下に年間指導計画に基づいた指導を充実させていくことが重要であると考えます。
- 2 いじめ防止フォーラム開催の意義は、児童生徒の主体的な取組に加え、保護者や地域住民を巻き込んだ地域一体型の取組を充実させることにある。今回の取組の成果を校内等に浸透させていくには生徒会等、生徒主体による取組を一層推進していく必要がある。今後は、生徒会等を中心に、いじめ防止に向けた啓発資料としてフォーラムの内容を盛り込んだリーフレットを作成し、吾妻郡内の小学校、中学校、高等学校の全クラスに掲示を依頼する予定である。さらに、今回の取組の成果を学校評議員会で紹介するとともに、掲示板や回覧板等を活用して地域に情報発信し、地域全体でいじめの未然防止、早期発見に努め、吾妻郡を始め群馬県からいじめをなくしていきたい。

吾妻地区いじめ防止フォーラム実施要項

1 趣旨

吾妻地区に設置された中学校・高等学校生徒指導対策協議会が、いじめ防止を目的としたフォーラムを開催し、小・中・高校生の代表者が意見交換等を行うことを通して、いじめ防止に向けた児童生徒の主体的な取組をより活性化させる。

2 主催

吾妻地区中学校・高等学校生徒指導対策協議会
(事務局校 群馬県立中之条高等学校)

3 実施期間及び時間帯

- (1) 期 日：平成26年6月20日(金)
- (2) 時 間：2時間程度(予定：14時～16時)

4 会場

群馬県立中之条高等学校(体育館、他)

5 参加校

- (1) 小学校：各中学校区から1校
- (2) 中学校：地区の全校
- (3) 高等学校：地区の全校

6 参加者

- (1) 児童生徒代表(各校1名、高校生は2名)
- (2) 保護者(小・中学校代表PTA会長 各高校PTA会長)
- (3) 校長及び引率教員(各校1名)
- (4) 地区中・高生徒指導対策協議会代表(中之条高等学校長)
- (5) 群馬県教育委員会
- (6) その他

7 日程

- (1) 開会 14:00～14:10(10分)
 - ア 開会宣言(小学生代表)
 - イ 主催者挨拶(地区中・高生徒指導対策協議会代表 中之条高等学校長)
- (2) ピアサポート体験 14:10～14:30(20分)
 - ・構成的グループエンカウンター、人間関係づくり等(中之条高校生徒会)
- (3) 班別協議 14:30～15:20(50分)
 - ・テーマ「温かい言葉で、思いやりの心を伝えよう」
 - ・友人や親から言われた「うれしい言葉」「傷つく言葉」のアンケート調査を実施して、各学校の対象クラスでまとめる。その内容を持ち寄り、友人や親と良好なコミュニケーションが図れるようグループで話し合う。
 - ・生徒は、6人～8人程度の班(小・中・高の混合)に分かれ、児童生徒が意見を出し合う。司会・記録は高校生が担当する。
 - ・保護者は、5人～6人程度の班に分かれ、アンケート結果を基に子供への接し方を考える。
(休憩10分)
- (4) 班別協議発表 15:30～15:55(25分)
 - ・各班で話し合ったことを発表する。(記録係の高校生)
- (5) 閉会 15:55～16:00(5分)
 - ア 県教育委員会講評
 - イ 閉会宣言(中学生代表)

吾妻地区いじめ防止フォーラム2014

～ 温かい言葉で 思いやりの心を伝えよう ～

言葉は人を和ますこともあり、傷つけることもある。人間関係づくりで大切なのは言葉遣いであることに気づこう！

★各学校の取り組み

1. アンケート調査を実施する。

※別紙1のアンケート用紙を活用してください。

(1) 言われてうれしい言葉 (ホカホカ言葉)

友達から



1位 ありがとう
2位 すごいね
3位 がんばったね

親から



1位 えらいね
2位 うれしいよ
3位 よくやったね

(2) 言われて傷つく言葉(つらかった言葉) (チクチク言葉)

友達から



1位 ウザイ
2位 バーカ
3位 キモイ

親から



1位 しっかりしなさい!
2位 いくつになるの!
3位 勉強しなさい!

※各学校で参加する生徒がいる学級を対象に、友達と親にそれぞれ言われた「嬉しい言葉」「傷つく言葉」をアンケート調査し、1位～3位を集計してください。(今回参加していない学校は任意の1学級を対象にしてください)

2. アンケート調査の結果を踏まえて、話し合いをする。

※アンケート調査を実施した学級を対象に、結果を開示し話し合う(小グループに分かれても可)

(1) 嬉しい言葉(ホカホカ言葉)が好きなのに、なぜ、傷つく言葉(チクチク言葉)を使ってしまうのだろう?



悪いとは思っても
つつい...



あいつに言われれば負け
るわけにはいかない!

みんなも言ってるし!



使ってしまう心の弱
さに気付かせる!



(2) 学級が「うれしい言葉」(ホカホカ言葉)であふれるようにするには、どうしたらよいでしょうか?



言われてイヤなことは人には言わない!



友達のよいところを見つけよう!



自分が言われて嬉しい言葉は、人の心まで温かくするものであることに気付かせる。



(3) 学級を「うれしい言葉」(ホカホカ言葉)でいっぱいにするために、自分でできることを書いてみよう!

Aくん

1. 「ありがとう」を言えるようにしよう
2. 友達を褒めてみよう。
- ...



Bさん

1. 「ごめんね」と素直に言おう。
2. 「手伝うよ」と助けてあげよう。
- ...

温かい言葉で



思いやりの心を伝えよう



各学校へのお願い

1. アンケート調査の結果を事務局(中之条高校)にFAXしてください。(別紙2の集計用紙を使用してください。) 班別協議の資料を事務局で作成します。
2. フォーラムに参加する生徒は、アンケート調査の結果と学級で話し合った内容を簡潔にまとめ、班別協議の自己資料として活用できるようにしてください。
3. ★各学校の取り組み 2 は授業展開の一例です。学級の規模に応じて、グループで話し合わせたり、発表させたり、効果が上がるように工夫をしていただいで結構です。